スーパーマーケット販売統計調査資料

2023 年 5 月実績 速報版
4 月実績 確報版

（2023 年 6 月 22 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：前月販売実績を速報値として公表　確報版：速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較　既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会

一般社団法人　日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2023年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2023年5月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	101,839,309	100.0%	103.9%	102.5%
食品合計	93,358,145	91.7%	104.3%	102.9%
生鮮３部門合計	34,506,685	33.9%	102.3%	100.8%
青果	13,925,873	13.7%	99.9%	98.6%
水産	8,665,403	8.5%	102.8%	101.3%
畜産	11,915,410	11.7%	104.8%	103.2%
惣菜	11,349,273	11.1%	106.0%	104.4%
日配	21,048,466	20.7%	106.9%	105.6%
一般食品	26,453,721	26.0%	104.1%	102.9%
非食品	6,343,923	6.2%	101.3%	100.2%
その他	2,137,286	2.1%	96.7%	96.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	13,805,737	43	103.4%	102.4%
関東地方	37,169,772	73	104.0%	102.4%
中部地方	12,648,134	53	104.3%	102.4%
近畿地方	22,647,680	44	103.9%	102.7%
中国・四国地方	10,368,836	34	103.5%	102.6%
九州・沖縄地方	5,199,150	23	104.3%	103.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	530,085	44	93.9%	98.5%
4～10店舗	4,503,026	85	100.6%	101.0%
11～25店舗	8,310,915	49	101.8%	101.3%
26～50店舗	18,010,150	46	103.3%	101.6%
51店舗以上	70,485,133	46	104.5%	103.0%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	99,631,944
総店舗数（店舗）	8,378	店舗平均月商（万円）	12,156
総売場面積（㎡）	13,940,938	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.3

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2023年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2023年4月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	98,970,690	100.0%	104.3%	103.3%
食品合計	90,635,955	91.6%	104.8%	103.7%
生鮮３部門合計	33,518,608	33.9%	103.1%	102.1%
青果	13,460,914	13.6%	100.2%	99.5%
水産	8,439,009	8.5%	103.0%	101.8%
畜産	11,618,685	11.7%	106.8%	105.4%
惣菜	10,977,265	11.1%	106.4%	105.2%
日配	20,189,852	20.4%	106.9%	105.7%
一般食品	25,950,232	26.2%	104.6%	103.6%
非食品	6,212,389	6.3%	100.9%	100.1%
その他	2,122,391	2.1%	96.4%	95.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	13,424,148	43	103.5%	103.8%
関東地方	36,226,022	73	105.0%	103.5%
中部地方	12,171,402	53	105.4%	104.0%
近畿地方	22,030,413	44	102.8%	101.9%
中国・四国地方	10,036,685	34	105.0%	103.7%
九州・沖縄地方	5,082,021	23	104.4%	103.6%

保有店舗数別集計

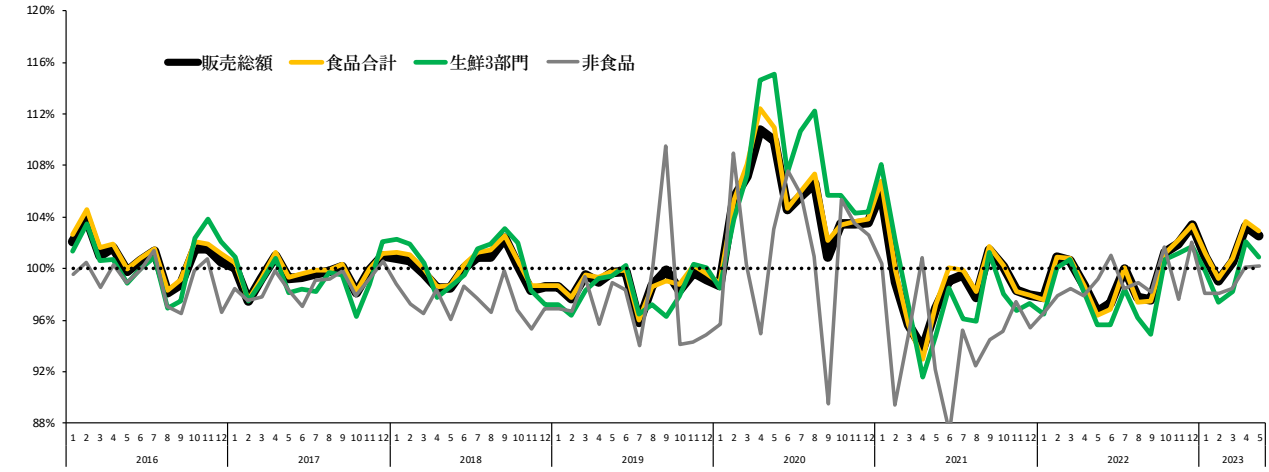
保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	509,171	44	93.5%	97.9%
4～10店舗	4,408,830	85	101.6%	101.6%
11～25店舗	8,054,256	49	102.9%	102.7%
26～50店舗	17,558,770	46	104.6%	103.1%
51店舗以上	68,439,663	46	104.7%	103.5%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	97,067,186
総店舗数（店舗）	8,373	店舗平均月商（万円）	11,820
総売場面積（㎡）	13,946,066	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.1

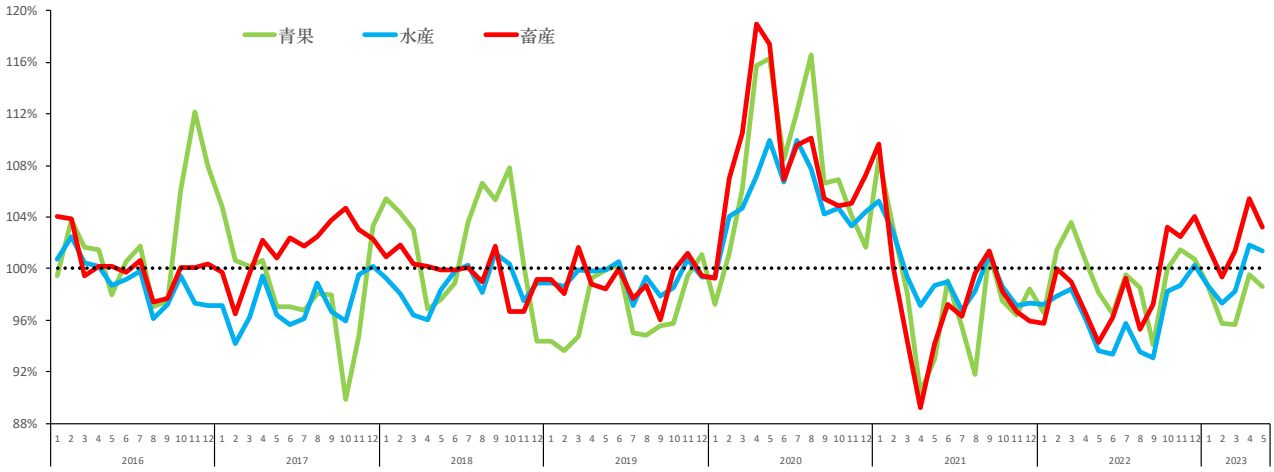
※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査　前年同月比（既存店）推移　2016年1月～

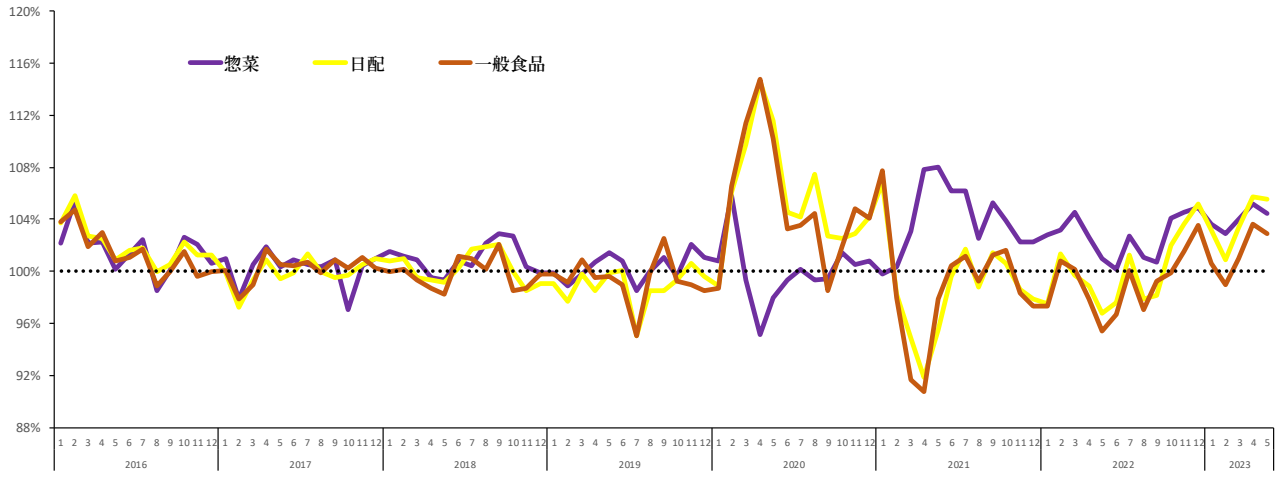
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2023年5月実績は速報版

2023年5月エリア別気候状況

5月の気温：北日本で高かった

上旬：西日本で低かった。

中旬：北日本で高かった。

下旬：北・西日本で高かった。

2022年5月との比較：上旬東日本でやや高く、下旬北日本と東日本日本海側でやや低かった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2023年5月（今年）			2022年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	0.6	1.5	0.1	0.3	2.1	1.2	0.3	-0.6	-1.1
太平洋側	0.9	1.2	1.4	0.6	2.0	1.1	0.3	-0.8	0.3
東日本 日本海側	0.0	1.2	0.1	-1.1	1.0	1.7	1.1	0.2	-1.6
太平洋側	0.4	0.7	0.1	-1.0	0.2	1.0	1.4	0.5	-0.9
西日本 日本海側	-0.5	0.5	0.9	-0.4	0.2	1.5	-0.1	0.3	-0.6
太平洋側	-0.4	0.2	0.4	-0.8	-0.4	0.8	0.4	0.6	-0.4

平年差
＋2℃以上
＋1℃以上
－2℃以上
－1℃以上

前年差
＋2℃以上
＋1℃以上
－2℃以上
－1℃以上

5月の日照時間：北・東日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で多かった

上旬：東日本太平洋側でかなり多く、北・東・西日本日本海側と北・西日本太平洋側で多かった。

中旬：北・東日本日本海側で多かった。

下旬：東・西日本日本海側と東日本太平洋側で少なかった。

2022年5月との比較：上旬は全国的にやや少なく、中旬は北日本と東日本の日本海側でやや少なくなった

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2023年5月（今年）			2022年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	103	86	109	140	125	129	-37	-39	-20
太平洋側	100	99	117	138	116	121	-38	-17	-4
東日本 日本海側	122	92	108	158	122	78	-36	-30	30
太平洋側	115	119	97	120	87	74	-5	32	23
西日本 日本海側	128	99	92	177	107	79	-49	-8	13
太平洋側	112	97	87	160	103	62	-48	-6	25

平年差
平年比150%以上
平年比125%～149%
平年比50%以下
平年比51%～75%

前年差
＋50%以上
＋25～49%
－50%以下
－25～-49%

5月の降水量：北日本太平洋側でかなり少なかった一方、西日本日本海側でかなり多かった

上旬：東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった。

中旬：北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。

下旬：東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側で多かった。一方、北日本日本海側、北日本太平洋側で少なかった。

2022年5月との比較：上旬は全国的にかなり多く、下旬は北日本でかなり少なく、西日本日本海側でかなり多くなった

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2023年5月（今年）			2022年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	134	28	87	98	41	174	36	-13	-87
太平洋側	119	32	47	68	31	171	51	1	-124
東日本 日本海側	338	40	194	59	68	146	279	-28	48
太平洋側	183	126	85	61	144	131	122	-18	-46
西日本 日本海側	236	100	160	6	62	48	230	38	112
太平洋側	209	104	84	30	137	75	179	-33	9

平年差
平年比150%以上
平年比125%～149%
平年比50%以下
平年比51%～75%

前年差
＋50%以上
＋25～49%
－50%以下
－25～-49%

気象庁報道資料「5月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2023年6月調査結果（5月実績）
(2023年6月22日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を100とした当月の値を調査　※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6 月調査（5 月実績）結果概況

現状判断は好不調判断の分かれ目 50 に迫る

5 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は、前月から+0.8 の 49.5、見通し判断は前月から-0.8 の 44.0 となり、現状判断、見通し判断ともほぼ前月水準で推移した。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI ともに前月から大きな変化はなかった。引き続き生鮮品仕入原価 DI と食品仕入原価 DI が過去最高水準で推移しており、販売価格 DI の高止まりも続いている。買上点数の減少幅は抑えられ、客単価 DI が上昇した。来客数 DI も小幅に上昇した前月水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、相場安の傾向が続く青果 DI、衛生用品に特需の反動が続く非食品 DI 以外でプラスを維持した。相次ぐ値上げ、家庭の電気・ガス代の高騰等による節約志向の高まりで、家庭内食事需要の低下に歯止めがかかっているほか、気温が高く推移したことで涼味商材が好調。また、行楽・イベント需要の回復も好調を牽引している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともに大きな変化はみられなかったが、前月まで 2 か月連続の大幅な改善傾向を維持している。（長期傾向については P11 参照）

商品単価の上昇が続いているが、5 類移行による人流活発化などもあって中食需要が伸びており、節約志向による内食需要も堅調で、売上高としては好調な販売動向が続いている。お客様は概ね値上げを受け入れている一方で、コモディティ商品については、より低価格の商品を求める傾向が強まっているとのコメントが多く見られた。引き続き商品原価や光熱費、人件費などあらゆるコストが上昇していく環境下において、数量減を伴わない単価増の継続に向けた販売戦略が求められている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域 景気判断DI
当月：４９．５（+０．８）	当月：４６．５（+０．９）	当月：４５．２（+０．７）	当月：４７．９（+０．４）
前月：４８．７	前月：４５．６	前月：４４．５	前月：４７．５

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域 景気判断DI
当月：４４．０（-０．８）	当月：４３．４（+０．３）	当月：４３．９（+１．０）	当月：４６．８（−０．４）
前月：４４．８	前月：４３．１	前月：４２．９	前月：４７．２

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI
当月：５．７（−１．２）	当月：１６．０（+１．３）	当月：−８．１（+０．３）
前月：６．９	前月：１４．７	前月：−８．４

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：４．７（+１．８）	当月：２４．４（−０．５）	当月：１８．１（−１．２）	当月：２５．３（+２．９）
前月：２．９	前月：２４．９	前月：１９．３	前月：２２．４

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：−６．４（−１．８）	当月：０．６（+０．２）	当月：９．１（−５．８）
前月：−４．６	前月：０．４	前月：１４．９

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：１５．７（−０．２）	当月：１６．８（+４．４）	当月：２．９（−０．８）	当月：−３．８（+３．３）
前月：１５．９	前月：１２．４	前月：３．７	前月：−７．１

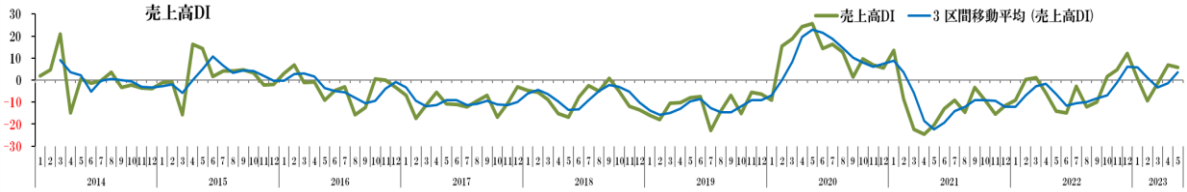
※DI 値は前年同月との比較／（）内は前月 DI からの変化

結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2014 年 1 月～）

1.　売上高 DI

当月ほぼ横ばいで推移、プラス圏を維持

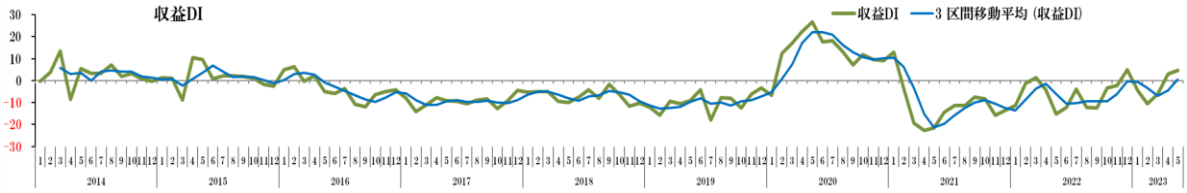
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	5.1	18.3	26.9	43.4	6.3	6.9
売上高（当月）	**7.4**	**17.8**	**23.9**	**46.6**	**4.3**	**5.7**



2.　収益 DI

当月小幅に上昇し、プラス圏を維持

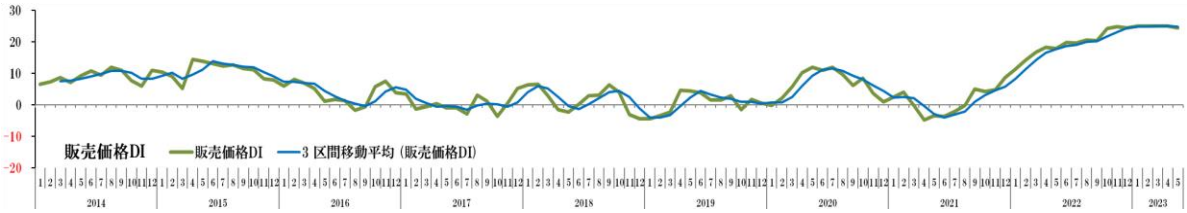
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	6.9	22.0	32.9	28.9	9.2	2.9
収益（当月）	**6.2**	**19.9**	**32.9**	**31.1**	**9.9**	**4.7**



3.　販売価格 DI

前月から横ばい、過去最高水準付近で推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	0.6	15.4	68.0	16.0	24.9
販売価格（当月）	**0.6**	**1.2**	**12.3**	**71.8**	**14.1**	**24.4**



4.　客単価 DI

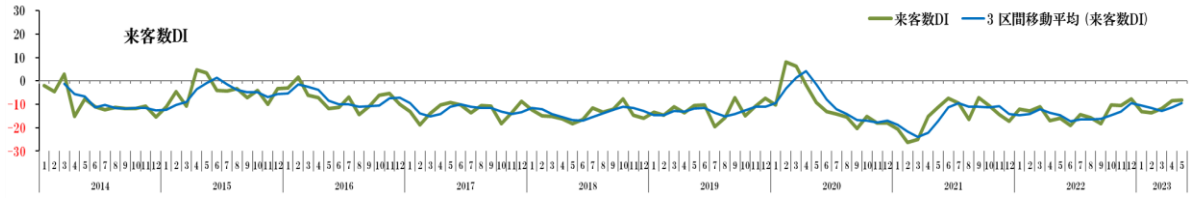
前月から小幅に上昇し、プラス幅を拡大

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	9.2	23.6	62.1	4.0	14.7
客単価（当月）	**2.5**	**6.8**	**18.6**	**68.3**	**3.7**	**16.0**

5.　来客数 DI

前月から横ばい推移

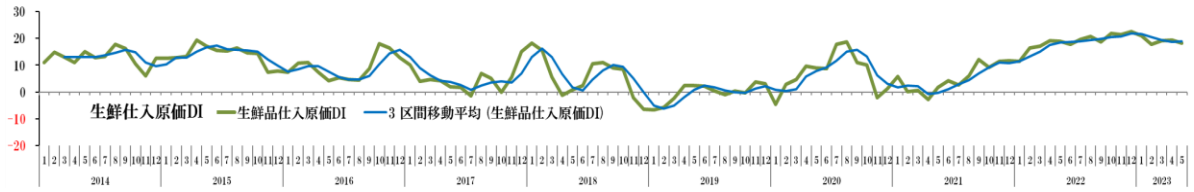
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	9.8	38.2	29.5	20.8	1.7	-8.4
来客数（当月）	**9.3**	**35.4**	**34.8**	**19.3**	**1.2**	**-8.1**



6.　生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい、二桁プラス圏で推移

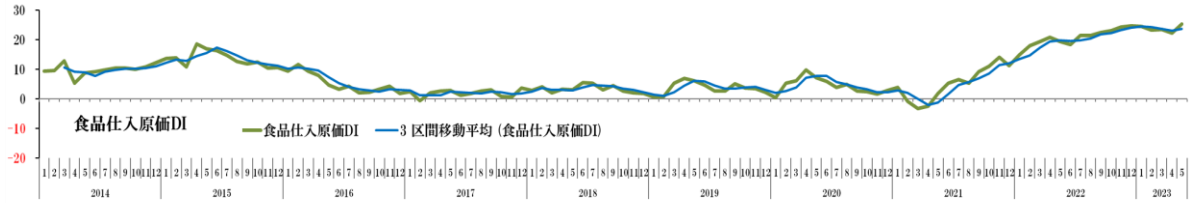
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	2.3	6.4	17.4	59.3	14.5	19.3
生鮮仕入原価（当月）	**2.5**	**6.3**	**18.8**	**61.3**	**11.3**	**18.1**



7.　食品仕入原価 DI

前月から小幅に上昇、25 か月連続プラス圏で推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	3.5	1.8	14.1	62.9	17.6	22.4
食品仕入原価（当月）	**0.6**	**3.2**	**13.9**	**58.9**	**23.4**	**25.3**

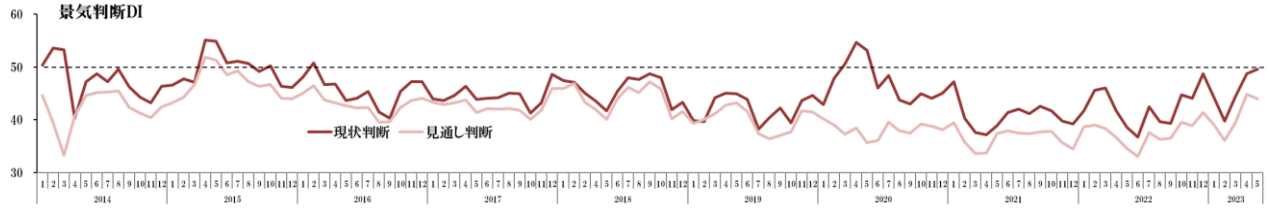


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1．　中核店舗景気判断 DI

現状判断が小幅に改善、好不調判断の分かれ目 50 に迫る

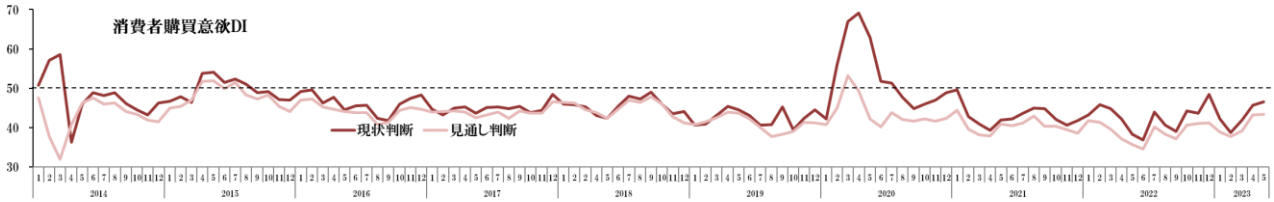
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.7	20.2	59.6	18.5	0.0	48.7
【現状】景気判断（当月）	**1.8**	**15.3**	**66.3**	**16.0**	**0.6**	**49.5**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	3.4	27.5	55.6	13.5	0.0	44.8
【見通し】景気判断（当月）	**4.3**	**26.4**	**58.3**	**11.0**	**0.0**	**44.0**



2．　消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

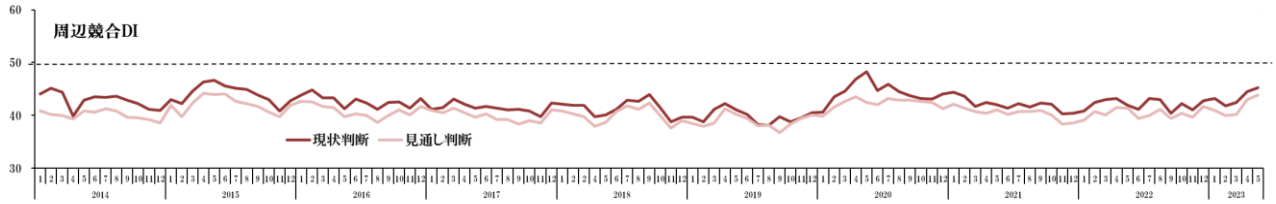
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.7	25.8	60.7	11.8	0.0	45.6
【現状】購買意欲（当月）	**1.8**	**22.7**	**63.8**	**11.0**	**0.6**	**46.5**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	3.4	30.3	57.3	8.4	0.6	43.1
【見通し】購買意欲（当月）	**3.1**	**30.1**	**57.1**	**9.8**	**0.0**	**43.4**



3．　中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	2.3	22.7	71.0	2.8	1.1	44.5
【現状】競合状況（当月）	**3.1**	**17.2**	**76.7**	**1.8**	**1.2**	**45.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	3.4	25.4	67.8	2.8	0.6	42.9
【見通し】競合状況（当月）	**3.7**	**20.9**	**72.4**	**2.5**	**0.6**	**43.9**

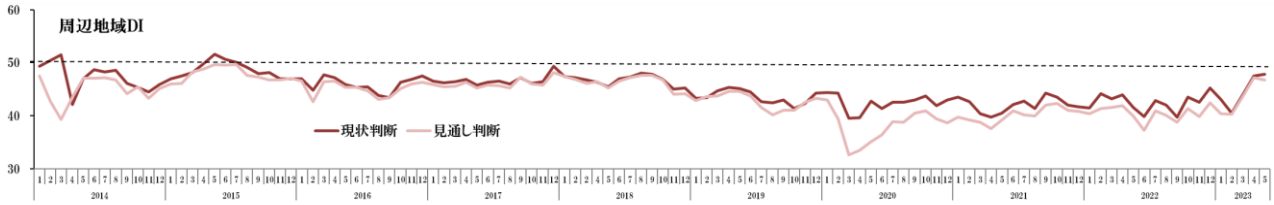


4.　中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	1.1	16.3	74.7	7.3	0.6	47.5
【現状】地域景気（当月）	**0.6**	**13.5**	**79.8**	**6.1**	**0.0**	**47.9**

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	1.1	18.5	71.3	8.4	0.6	47.2
【見通し】地域景気（当月）	**1.2**	**18.4**	**72.4**	**8.0**	**0.0**	**46.8**

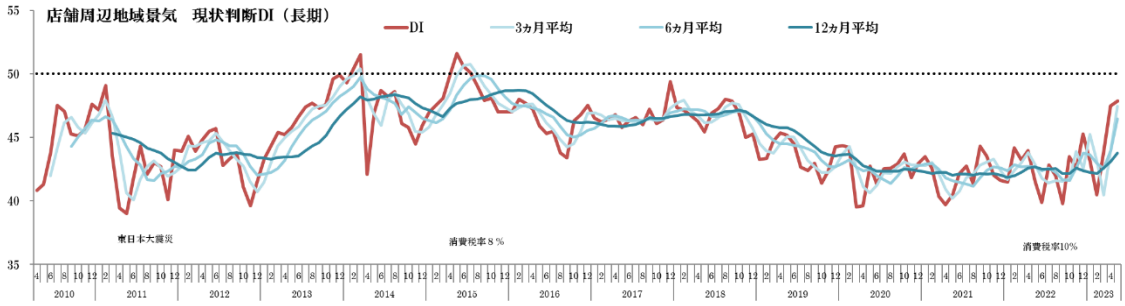


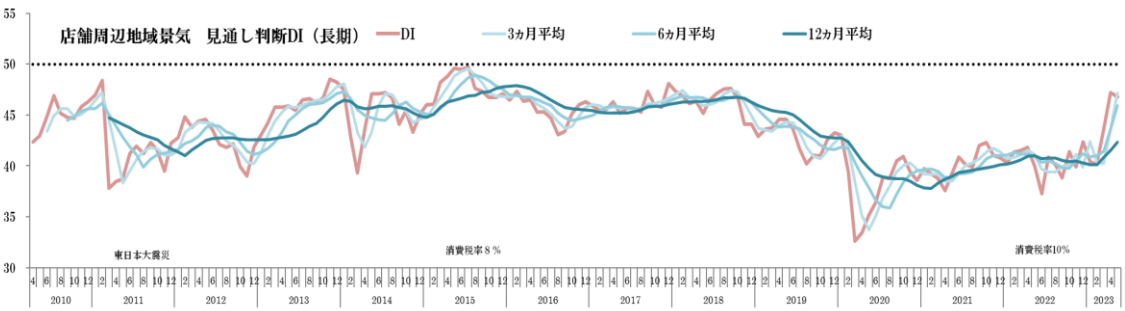
・中核店舗周辺地域景気判断 DI　長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後 15 ヵ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。

20 年 2 月に大幅に悪化したが、その後持ち直しの動きが続いた。21 年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22 年 4 月以降悪化が続き、6 月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後 10 月に再び改善に転じたものの、23 年 3 月以降は改善が続いている。

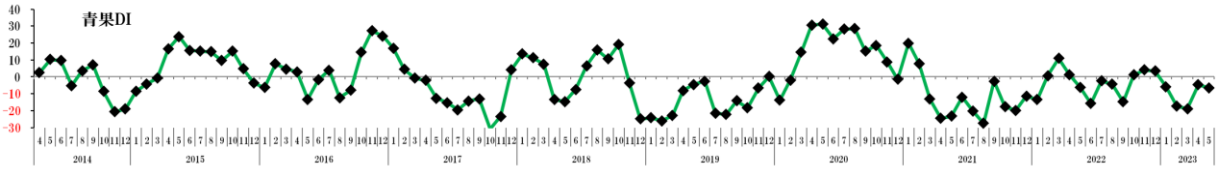




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-6.4（やや不調）

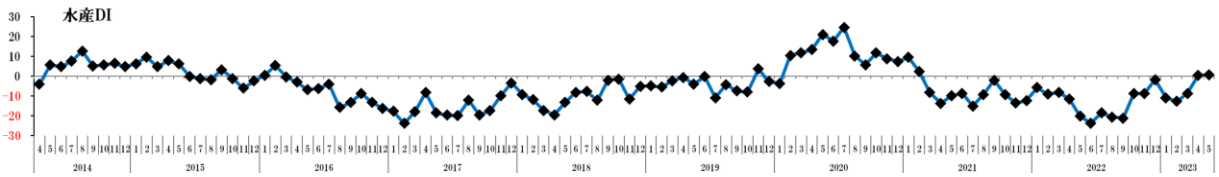
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	9.5	33.3	27.4	25.6	4.2	-4.6
青果（当月）	**9.6**	**35.7**	**28.0**	**24.2**	**2.5**	**-6.4**



全体的に相場安の傾向だったが、買上点数は伸び悩み、やや不調となった。一部には連休期間中の外出が増え影響を受けたとのコメントもみられた。前年の土物類高騰からの反動減の影響が続いている。気温がやや高く推移したことでトマトやきゅうり、レタスなどのサラダ関連野菜が好調。果実はやや相場高で、カットフルーツを中心に国産はイチゴや柑橘類、輸入果実はバナナやキウイフルーツが好調。

2.　水産 DI：0.6（やや好調）

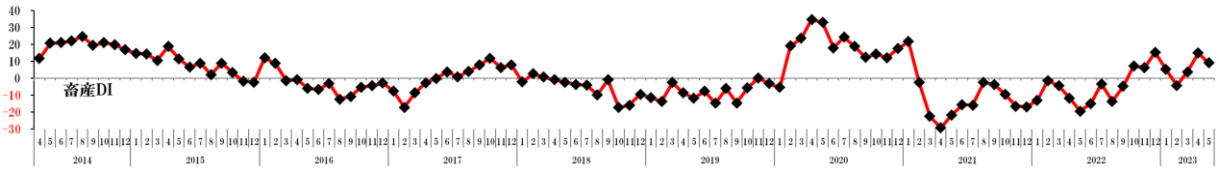
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.8	27.5	25.1	34.1	5.4	0.4
水産（当月）	**7.6**	**25.5**	**28.7**	**33.1**	**5.1**	**0.6**



引き続き燃料費や養殖飼料等の高騰、円安等により価格は高止まりしているが、GW 期間中はまぐろを中心に刺身類が好調となった店舗が多かった。一方で雨天によりバーベキュー需要が減少した店舗もみられた。塩干類は、値上げによる買上点数の落ち込みが少なく、比較的好調となった。入荷が比較的安定しているカツオやアジ、鮭類が好調。冷凍加工品の動きもよかった。うなぎは価格高騰により、好不調の判断がわかれている。

3.　畜産 DI：9.1（やや好調）

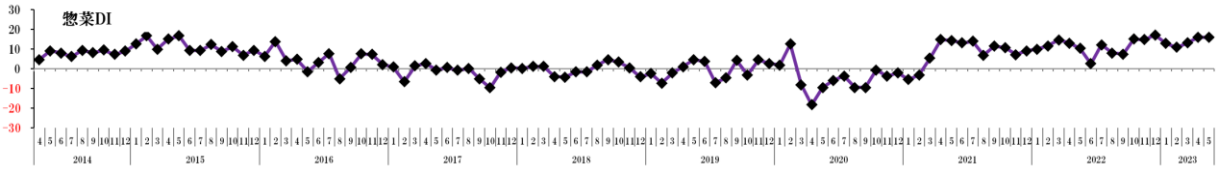
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.0	13.1	23.8	41.7	18.5	14.9
畜産（当月）	**4.5**	**17.2**	**24.8**	**44.6**	**8.9**	**9.1**



精肉全般で相場高が続いているが、豚肉や鶏肉では安価な部位を中心に好調となった。牛肉は連休期間中バーベキュー、焼肉用の動きが良かったが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。豚肉では国産にも回復傾向がみられたが、輸入の動きがよい。鶏肉も高値が続いているが、好調に推移した。加工肉も含め、低価格商品に需要がシフトしているとのコメントが多い。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。

4.　惣菜 DI：15.7（好調）

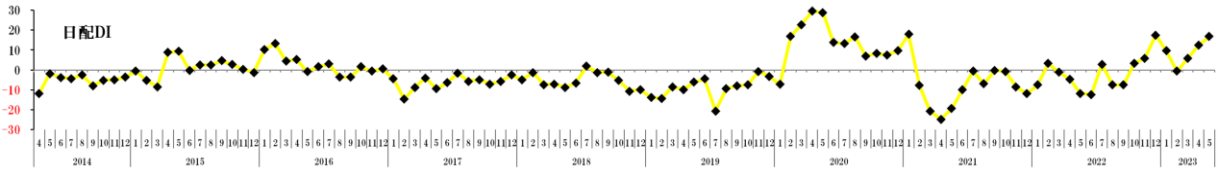
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.0	8.5	24.8	49.1	14.5	15.9
惣菜（当月）	**1.9**	**11.0**	**24.0**	**48.1**	**14.9**	**15.7**



単価アップが受け入れられやすいカテゴリーであり点数減が少なく好調。家庭での電気・ガス代高騰や調理油の値上げで、天ぷら、コロッケなど揚物類の販売が依然として堅調に推移している。行楽需要やイベントの再開が奏功、オフィス出勤の再開基調による夕食需要回復も継続。米飯類の動きがよい。連休中は地方部で帰省が増えオードブルや寿司、つまみ類や焼鳥などが好調。こどもの日や母の日関連商品も好調に推移した。

5.　日配 DI：16.8（好調）

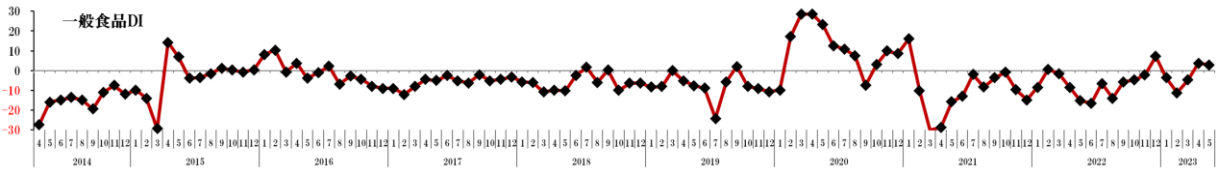
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.0	13.7	27.4	42.9	13.1	12.4
日配（当月）	**2.6**	**9.6**	**23.1**	**47.4**	**17.3**	**16.8**



乳製品やパン類を中心に値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、買上点数の減少幅は小さく、一品単価上昇により、好調に推移した。鶏卵は価格高騰によって売上増となったが、北海道など一部地域で品薄の影響が依然強くなっている。冷凍食品は引き続き好調を持続。チーズ、機能性の乳酸菌飲料など、洋日配がカテゴリーの好調を牽引している。気温が高く推移し、飲料やアイス、涼味麺などの動きがよかった。

6.　一般食品：2.9（やや好調）

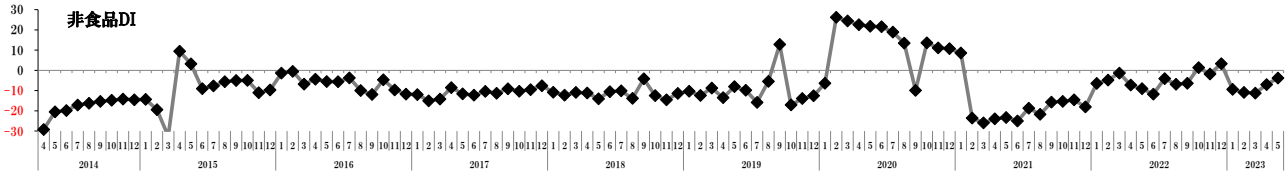
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.2	23.8	33.3	30.4	8.3	3.7
一般食品（当月）	**5.8**	**21.9**	**35.5**	**28.4**	**8.4**	**2.9**



全般的に値上げによる販売価格上昇で売上高は伸びているが、店舗により好不調の判断がわかれる傾向もみられた。レトルト食品やインスタント麺などは好調だが安価な商品への需要シフトもみられる。食用油や調味料などは値上げと家庭調理需要の継続に支えられ引き続き堅調に推移した。高い気温で推移し、そうめんなど涼味関連も好調。行楽需要で菓子や飲料、酒類も好調となった。米類にも回復がみられた。節約志向の高まりや、PB 商品の伸長を指摘するコメントが多くみられた。

7．　非食品 DI：-3.8（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.7	29.4	31.3	18.4	6.1	-7.1
非食品（当月）	**9.3**	**30.5**	**32.5**	**21.9**	**6.0**	**-3.8**



引き続きマスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は需要減少の影響を受けているものの、ペットフードや家庭用洗剤などが好調に推移した。トイレットペーパー、キッチンペーパーなど紙製品の好調を指摘するコメントが多い。カセットコンロやレジャーシートなど、行楽向け商品も好調に推移。気温が高めに推移し、例年より早く虫ケア用品などが動いているとのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～ -20　　かなり不調：　-20～

2023 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1．　値上げによる一品単価上昇
2．　連休期間中の帰省が増加
3．　節約志向で家庭内食事需要が堅調

（参考）2022 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1．　行動制限緩和による人流変化と来客数減少
2．　輸入品を中心とした価格高騰
3．　内食需要の低下

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

5 月実績速報版　163 社
4 月実績確報版　178 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp